

臨床心理学関連科目の授業実践について

山下京子*

(2021年8月16日 受理)

Class Practice of Subjects Related to Clinical Psychology

Kyoko YAMASHITA*

This paper reports on the practice of the “Educational Assessment” and “Communication Theory and Practice” classes, and examines the issues. To prevent the spread of COVID-19 infection, online lessons were conducted, but the problem was that there was a lack of lessons to learn the basics of psychology in curriculum organization, rather than not being able to do face-to-face lessons. In childcare and teacher training, clinical psychology has demonstrated expertise in child development assessments, environmental assessments surrounding children, and counseling for children and parents. Rather, the true value of clinical psychology lies in the way we approach the human mind. It is far from efficiency and evidence, but through clinical psychology it is believed that we can have the richness and depth of mind that is needed today. It is also required in childcare worker training and teacher training courses.

Keywords: Educational Assessment 教育アセスメント, Communication Theory and Practice コミュニケーションの理論と実践, COVID-19 新型コロナウイルス感染症, childcare and teacher training 保育者・教育者養成, clinical psychology 臨床心理学

1. はじめに

2018年度の全学改組により、幼児教育心理学科は児童教育学科と名称を変更し、カリキュラムの大幅な変更を行った。今年度は完成年度であり、次年度からはさらに部分的にカリキュラムを変更する予定になっている。幼児教育心理学科の前身は、2000年に文学部に開設された人間・社会文化学科である。2007年には、人間・社会文化学科を改組して文学部に幼児教育心理学科を開設し、心理学関連の科目をそのまま残し、そこに保育士資格と幼稚園・小学校教諭免許を取得できるようにカリキュラムを編成した。その後、2012年に文学部と生活科学部を国際教養学部と人間生活学部へ改組し、人間生活学部幼児教育心理学科へ、2018年改組により児童教育学科となり今日に至る。児童教育学科では、人間・社会文化学科のカリキュラムから残っていた心理学関連の科目を見直し、保育者・教育者養成に特化した内容の科目を新設した。人間・社会文化学科と幼児教育心理学科における臨床心理学関連の科目は、次の9科目であった。臨床心理学概論（2年次）、臨床心理学演習（3年次）、心理検査法Ⅰ（3年次）、心理検査法Ⅱ（3年次）、カウンセリング概論Ⅰ（2年次）、カウンセリング概論Ⅱ（2年次）、カウンセリング演習Ⅰ（3年次）、カウンセリング演習Ⅱ（3年次）、カウンセリング実習（4年次）。児童教育学科では、これら9科目を廃止し、「教育アセスメント」

* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

(3年次)と「コミュニケーションの理論と実践」(4年次)の2科目を新設した。いずれの科目も選択科目であり、今年度で「教育アセスメント」は2回目の開講、「コミュニケーションの理論と実践」は初めての開講であった。また、昨年度と今年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大のために、部分的に遠隔授業の実施となり、シラバス通りの授業実施とはならなかった。本稿では、コロナ禍における「教育アセスメント」「コミュニケーションの理論と実践」の授業実践を紹介し、課題を明らかにするとともに、保育者・教育者養成課程における臨床心理学の位置づけについて考察を加える。

2. 「教育アセスメント」の授業実践

2018年度カリキュラムでは、臨床心理学関連科目として「教育アセスメント」「コミュニケーションの理論と実践」の2科目を新設した。「教育アセスメント」は、2012年度カリキュラムの「心理検査法Ⅰ」をもとに、行動観察法と面接法、フィードバックの仕方を追加した。2020年度「教育アセスメント」のシラバスを表1に示した。2020年度始めは、全国の高等教育機関がそうであったように、本学もCOVID-19対応に迫られた。授業は連休明け5月11日月曜日から、遠隔授業を実施することになった。大学だけでなく学生も情報環境整備が十分とは言えない状況の中で、Google Classroomを利用すること、原則として双方向型のオンライン授業ではなく、オンデマンド型配信とすることが決定された。「教育アセスメント」は、教科書を使用せず、資料を印刷・配布予定であったが、遠隔授業実施に当たって、授業担当者である筆者が独自に教材用資料を作成することに変更した。遠隔授業用資料は、パワーポイントを用いて作成し、解説音声をつけて動画にして配信した。実際の授業概要について、表2に示した。表2に示されたように、シラバスに記載された授業で扱う内容の大幅な変更はせず、順番や施行方法の変更を行った。すなわち、表1に示したシラバスの授業計画「2 観察法」「3 観察記録の整理・分析」「4 面接法」「5 カウンセリングの基本」「6 面接の実施と記録・分析の仕方」については、当初予定していた、実際に子どもの遊ぶ様子を幼稚園で観察することや、受講生同士でロールプレイングをするグループ・ワークなどは取りやめ、代わりに、観察計画(観察方法・観察記録の取り方・記録の整理・分析の仕方等)を立案する課題や事例についてインタビュー面接の方針を立てる課題に変更した。2020年度前期授業については、原則として遠隔授業であったが、実験実習など特別な場合にのみ対面授業が許可された。そこで心理検査の施行は対面授業で行い、YG性格検査、内田クレペリン作業検査、PFスタディの個別検査はマニュアル通りに実施し、知能検査(WISC-Ⅳ)は、部分的に模擬試行した。対面授業ではCOVID-19対応のために教室定員の制限が設けられ、「教育アセスメント」は2分級となった。2020年度の受講者数は29名(児童教育学科3年生)と、旧カリキュラムの「心理検査法Ⅰ」の受講者2名(幼児教育心理学科4年生)の計31名であった。(「教育アセスメント」を「心理検査法Ⅰ」で読み替え対応している。)15名と16名の2グループに分け、授業日と同日に別に1コマを開講した。また、対面授業では、感染予防としてグループ・ワークや、心理検査用具を共有することもできる限り避けようとしたために、当初の予定とは異なり、知能検査(WISC-Ⅳ)を重点的に取り扱うことができなかった。受講者全員が単位を修得したが、新カリキュラム履修の3年生の受講者は、臨床心理学関連科目だけでなく、そもそも心理学関連科目もカリキュラムにない状況での「教育アセスメント」の受講は理解が難しかったようで、提出された課題の評価や、授業アンケート結果にもそのことが表れていた。

臨床心理学関連科目の授業実践について

表1 2020年度「教育アセスメント」シラバス

授業形態	
②演習 ③実験・実習 A: グループワークあり	
授業目的	
<p>教育アセスメントの理論と方法について学習し、実験・実習を通して、子どもを理解するための方法を身につけることを目的とする。</p> <p>教育アセスメントの方法として、観察法、面接法、心理検査を取り上げる。各種の教育アセスメントの理論と施行法、結果の整理と分析・解釈の仕方について学習する。実際に観察、面接、心理検査を行い、データをもとに、結果の整理、分析・解釈を試みる。</p> <p>心理検査として、知能検査、描画法検査、質問紙法検査を取り上げる。</p> <p>DP2(多様性) 心理学的な視点から人間の心身の発達過程や多様性を理解し、子どもと子どもを取り巻く人々や自己の価値観・生き方、文化的背景の多様性を受容できる。</p>	
到達目標	
1	①教育アセスメントについて、基本的な考え方を理解し、適切な方法で施行することができる。
Learning Effort 4	教育アセスメントを定められた方法で実施し、被験者に適切に対応することができた。
Learning Effort 3	教育アセスメントを実施の手引書に従い、施行することができた。
Learning Effort 2	教育アセスメントに関する基本的な考え方と施行方法を理解できた。
Learning Effort 1	教育アセスメントについて、基本的な考え方を理解できた。
2	②教育アセスメントの結果について、適切に、整理・分析・解釈を行うことができる。
Learning Effort 4	教育アセスメント結果を手引書に従い、整理・分析し、臨床心理学的理論を用いて解釈できた。
Learning Effort 3	教育アセスメント結果を手引書に従い、適切に整理・分析できた。
Learning Effort 2	教育アセスメント結果を手引書に従い、適切に整理できた。
Learning Effort 1	教育アセスメント結果の取り扱い方法について理解できた。
3	③教育アセスメント結果について、報告書を作成することができる。
Learning Effort 4	教育アセスメント結果について、被験者へのフィードバックを考慮した報告書を作成することができた。
Learning Effort 3	教育アセスメント結果について、医療機関や教育機関などの提出先に合わせて、報告書を作成できた。
Learning Effort 2	教育アセスメント結果について報告書の書き方に従い、文章化することができた。
Learning Effort 1	教育アセスメント結果について、報告書の書き方を理解できた。
授業計画	
1	オリエンテーション・教育アセスメントとは何か
授業の進め方について説明し、教育アセスメントについて解説する。	
到達目標①	
事前学修 教育アセスメントについて、どのようなものがあるかを文献等で調べて、ノートにまとめておく。(10分)	
事後学修 配布されたプリントを読む。(10分)	
2	観察法
観察法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)	
観察を行い、記録を作成する。	
到達目標①	
事前学修 観察法について調べて、ノートにまとめておく。(10分)	
事後学修 観察記録データの整理をする。(10分)	
3	観察記録の整理と分析・解釈
観察記録の整理と分析・解釈について説明する。(講義)	
報告書の書き方について説明する。(講義)	
マニュアルに従い、結果整理、分析、解釈を行う。	
到達目標②③	
事前学修 観察記録について見直しをしておく。(10分)	
事後学修 報告書を作成する。(60分)	
4	面接法
面接法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)	
ロールプレイングを行う。	
到達目標①	
事前学修 面接法について調べて、ノートにまとめておく。(10分)	
事後学修 ロールプレイングの記録の整理をする。(10分)	
5	カウンセリングの基本
カウンセリング技法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)	
ロールプレイングを行う。	
到達目標①	
事前学修 カウンセリング技法について調べて、ノートにまとめておく。(10分)	
事後学修 ロールプレイングの記録の整理をする。(10分)	
6	面接の実施と記録・分析の仕方
模擬面接を行い、記録を作成する。	
分析の仕方を解説する。(講義)	
到達目標②③	
事前学修 カウンセリングの基本を、見直しをしておく。(10分)	
事後学修 報告書を作成する。(60分)	

- 7 質問紙法による性格検査の施行 (YG, 東大式エゴグラム)

質問紙法による性格検査の理論的背景について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)

性格検査を施行する。

到達目標①

事前学修 YG, 東大式エゴグラムについて調べ、ノートにまとめておく。(10分)

事後学修 理論的背景をノートにまとめる。(10分)
- 8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈 (YG, 東大式エゴグラム)

質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈について説明する。(講義)

報告書の書き方について説明する。(講義)

マニュアルに従い、結果整理、分析、解釈を行う。

到達目標②③

事前学修 実施した心理検査の結果について、見直しをしておく。(10分)

事後学修 報告書を作成する。(60分)
- 9 描画法による心理検査

描画法による心理検査の概要と、施行方法を紹介する。(講義)

描画法による心理検査を施行する。

到達目標①

事前学修 描画法による心理検査についてどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめておく。(10分)

事後学修 描画法による心理検査の長所と短所についてまとめる。(10分)
- 10 描画法による心理検査の分析・解釈

描画法による心理検査の分析・解釈について説明する。(講義)

検査結果を分析・解釈する。

到達目標②③

事前学修 描画法の結果の分析・解釈の仕方について、配布されたプリントを見ておく。(10分)

事後学修 分析・解釈を完成させ、報告書を作成する。(60分)
- 11 知能検査 (ウエクスラー式知能検査)

知能検査について、理論的背景を紹介し、施行方法について、DVDを用いて説明する。(講義)

到達目標①

事前学修 知能検査について調べ、ノートにまとめておく。(10分)

事後学修 施行方法について、マニュアルを読む。(10分) 熟読し、練習をしておく。(30分)
- 12 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の施行

知能検査を施行する。

ウエクスラー式知能検査の WISC, WPPSI について、グループで順番に実施する。

到達目標①

事前学修 グループで実施する知能検査のマニュアルを熟読し、練習をしておく。(30分)

事後学修 検査結果を記録用紙にまとめる。(30分)
- 13 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の施行

知能検査を施行する。

ウエクスラー式知能検査の WISC, WPPSI について、グループで順番に実施する。

到達目標①

事前学修 グループで実施する知能検査のマニュアルを熟読し、練習をしておく。(30分)

事後学修 検査結果を記録用紙にまとめる。(30分)
- 14 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の結果整理と分析・解釈

知能検査の結果の整理、分析・解釈について説明する。(講義)

結果について、整理、分析・解釈を行う。

到達目標②③

事前学修 検査結果を用意しておく。(10分)

事後学修 分析・解釈を完成させ、報告書を作成する。(60分)
- 15 アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方

アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方について解説を行う。(講義)

到達目標③

事前学修 これまでの報告書をもとに、フィードバックの仕方を考えておく。(10分)

事後学修 報告書を見直し、フィードバックしやすいように推敲する。(10分)

授業成果

観察法や面接法、心理検査法の実施方法を習得し、アセスメント結果の整理、分析、解釈ができる。

成績評価の方法

授業で取り上げるアセスメント方法すべてについて、レポート提出を要求する。提出されたレポートについて、実施方法が適切であるか (20%)、データの整理の仕方が適切で正確であるか (30%)、データの分析・解釈がマニュアルに従って行われているか (30%)、報告書の形式に従っているか (20%) で、総合的に評価する。

臨床心理学関連科目の授業実践について

表2 2020年度「教育アセスメント」授業の概要

授業回	授業実施日	授業計画シラバス変更	授業概要
1	5・11 遠隔 オンデマンド	1 オリエンテーション・教育アセスメントとは何か 2 観察法	遠隔用資料:観察法(解説付きスライド) 事後課題 観察計画を立てる
2	5・18 遠隔 オンデマンド	3 観察記録の整理と分析・解釈	遠隔用資料:行動観察(解説付きスライド) 事後課題 観察計画の修正
3	5・25 遠隔 オンデマンド	4 面接法 5 カウンセリングの基本	遠隔用資料:面接法(解説付きスライド) 事前課題 面接法について 事後課題 ケース2事例
4	6・1 遠隔 オンデマンド	6 面接の実施と記録・分析の仕方 9 描画法による心理検査	遠隔用資料:事後課題(観察計画・インタビュー面接)について解説(解説付きスライド) 遠隔用資料:心理検査(解説付きスライド) 事前課題 心理検査法について 事後課題 描画法による心理検査
5	6・8 遠隔 オンデマンド	10 描画法による心理検査の分析・解釈	遠隔用資料:バウム・テストの見方(解説付きスライド) 事後課題 分析・解釈
6	6・15 遠隔 オンデマンド	7 質問紙法による性格検査の施行(YG, 東大式エゴグラム) 11 知能検査(ウエクスラー式知能検査)	遠隔用資料:心理検査について解説(解説付きスライド) 事後課題 事例
7	6・22 遠隔 オンデマンド	8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈(YG, 東大式エゴグラム) 12 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行 13 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行	遠隔用資料:心理検査について解説(解説付きスライド) 事後課題 事例
8	6・29 遠隔 オンデマンド	13 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行 14 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の結果整理と分析・解釈	遠隔用資料:心理検査(知能検査, PF スタディ, 内田クレベリン)の解説(解説付きスライド) 事後課題 小テスト
9	7・6 遠隔 オンデマンド	15 アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方	遠隔用資料:心理検査(知能検査)の解説(解説付きスライド) 事後課題 小テスト
10	7・13 対面 2分級	7 質問紙法による性格検査の施行(YG, 東大式エゴグラム)	授業:心理検査(YG, 内田クレベリン, PF スタディ, 知能検査)の施行 事後課題 心理検査結果整理
11	7・20 対面 2分級	8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈(YG, 東大式エゴグラム) 12 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行 13 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行	授業:心理検査(YG, 内田クレベリン, PF スタディ, 知能検査)の施行 事後課題 心理検査結果整理
12	7・27 対面 2分級	14 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の結果整理と分析・解釈	授業:心理検査(YG, 内田クレベリン, PF スタディ, 知能検査)の施行 事後課題 YG, 内田クレベリン, PF スタディのレポート 事後課題 事例①②

保育者・教育者養成における1科目として、行動観察法や面接法、心理検査として知能検査に重点を置きたかったが、COVID-19対応のために変更や修正をせざるを得なかった。

2021年度のシラバスには、COVID-19対応として、「ICTツール等の活用」が追加された。表3に2021年度「教育アセスメント」シラバスを示した。「教育アセスメント」においても「授業の連絡にMelly¹⁾を利用。課題提示・提出にGoogle Classroomを利用。」を追記した。Mellyは、学生と教員をつなぐ授業支援SNSアプリである。2020年度後期は、最初は対面授業で始まったが、途中から遠

表3 2021年度「教育アセスメント」シラバス

授業形態

A: 授業形態②演習③実験・実習 A: グループワークあり

B: ICT ツール等の活用

授業の連絡に Melly を利用。

課題提示・提出に Google Classroom を利用。

授業目的

【授業の目的】教育アセスメントの理論と方法について学習し、実験・実習を通して、子どもを理解するための方法を身につけることを目的とする。教育アセスメントの方法として、観察法、面接法、心理検査を取り上げる。各種の教育アセスメントの理論と施行法、結果の整理と分析・解釈の仕方について学習する。実際に観察、面接、心理検査を行い、データをもとに、結果の整理、分析・解釈を試みる。心理検査として、知能検査、描画法検査、質問紙法検査を取り上げる。

【カリキュラム上の位置づけ】DP2(多様性) 心理学的な視点から人間の心身の発達過程や多様性を理解し、子どもと子どもを取り巻く人々や自己の価値観・生き方、文化的背景の多様性を受容できる。

到達目標

- 1 ①教育アセスメントについて、基本的な考え方を理解し、適切な方法で施行することができる。
 Learning Effort 4 教育アセスメントを定められた方法で実施し、被験者に対応することができた。
 Learning Effort 3 教育アセスメントを実施の手引書に従い、施行することができた。
 Learning Effort 2 教育アセスメントに関する基本的な考え方や施行方法を理解できた。
 Learning Effort 1 教育アセスメントについて、基本的な考え方を理解できた。
- 2 ②教育アセスメントの結果について、適切に、整理・分析・解釈を行うことができる。
 Learning Effort 4 教育アセスメント結果を手引書に従い、整理・分析し、臨床心理学的理論を用いて解釈できた。
 Learning Effort 3 教育アセスメント結果を手引書に従い、適切に整理・分析できた。
 Learning Effort 2 教育アセスメント結果を手引書に従い、適切に整理できた。
 Learning Effort 1 教育アセスメント結果の取り扱い方法について理解できた。
- 3 ③教育アセスメント結果について、報告書を作成することができる。
 Learning Effort 4 教育アセスメント結果について、被験者へのフィードバックを考慮した報告書を作成することができた。
 Learning Effort 3 教育アセスメント結果について、医療機関や教育機関などの提出先に合わせて、報告書を作成できた。
 Learning Effort 2 教育アセスメント結果について報告書の書き方に従い、文章化することができた。
 Learning Effort 1 教育アセスメント結果について、報告書の書き方を理解できた。

授業計画

- 1 オリエンテーション・教育アセスメントとは何か
 授業の進め方について説明し、教育アセスメントについて解説する。
 到達目標①
 事前学修 教育アセスメントについて、どのようなものがあるかを文献等で調べて、ノートにまとめておく。(10分)
 (Google Classroom で提出)
 事後学修 配布されたプリントを読む。(10分)
- 2 観察法
 観察法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)
 観察を行い、記録を作成する。
 到達目標①
 事前学修 観察法について調べて、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出)
 事後学修 観察記録データの整理をする。(10分)
- 3 観察記録の整理と分析・解釈
 観察記録の整理と分析・解釈について説明する。(講義)
 報告書の書き方について説明する。(講義)
 マニュアルに従い、結果整理、分析、解釈を行う。
 到達目標②③
 事前学修 観察記録について見直しをしておく。(10分) (Google Classroom で提出)
 事後学修 報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
- 4 面接法
 面接法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)
 ロールプレイングを行う。
 到達目標①
 事前学修 面接法について調べて、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出)
 事後学修 ロールプレイングの記録の整理をする。(10分) (Google Classroom で提出)
- 5 カウンセリングの基本
 カウンセリング技法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)
 ロールプレイングを行う。
 到達目標①
 事前学修 カウンセリング技法について調べて、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出)
 事後学修 ロールプレイングの記録の整理をする。(10分) (Google Classroom で提出)
- 6 面接の実施と記録・分析の仕方
 模擬面接を行い、記録を作成する。
 分析の仕方を解説する。(講義)

臨床心理学関連科目の授業実践について

	到達目標②③
	事前学修 カウンセリングの基本を、見直しをしておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
7	質問紙法による性格検査の施行 (YG, 東大式エゴグラム) 質問紙法による性格検査の理論的背景について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義) 性格検査を施行する。
	到達目標①
	事前学修 YG, 東大式エゴグラムについて調べ、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 理論的背景をノートにまとめる。(10分) (Google Classroom で提出)
	8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈 (YG, 東大式エゴグラム) 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈について説明する。(講義) 報告書の書き方について説明する。(講義) マニュアルに従い、結果整理、分析、解釈を行う。
	到達目標②③
	事前学修 実施した心理検査の結果について、見直しをしておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
9	描画法による心理検査 描画法による心理検査の概要と、施行方法を紹介する。(講義) 描画法による心理検査を施行する。
	到達目標①
	事前学修 描画法による心理検査についてどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 描画法による心理検査の長所と短所についてまとめる。(10分) (Google Classroom で提出)
	10 描画法による心理検査の分析・解釈 描画法による心理検査の分析・解釈について説明する。(講義) 検査結果を分析・解釈する。
	到達目標②③
	事前学修 描画法の結果の分析・解釈の仕方について、配布されたプリントを見ておく。(10分) 事後学修 分析・解釈を完成させ、報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
11	知能検査 (ウエクスラー式知能検査) 知能検査について、理論的背景を紹介し、施行方法について、DVD を用いて説明する。(講義)
	到達目標①
	事前学修 知能検査について調べ、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 施行方法について、マニュアルを読む。(10分) 熟読し、練習をしておく。(30分)
	12 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の施行 知能検査を施行する。 ウエクスラー式知能検査の WISC, WPPSI について、グループで順番に実施する。
	到達目標①
	事前学修 グループで実施する知能検査のマニュアルを熟読し、練習をしておく。(30分) 事後学修 検査結果を記録用紙にまとめる。(30分) (Google Classroom で提出)
13	知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の施行 知能検査を施行する。 ウエクスラー式知能検査の WISC, WPPSI について、グループで順番に実施する。
	到達目標①
	事前学修 グループで実施する知能検査のマニュアルを熟読し、練習をしておく。(30分) 事後学修 検査結果を記録用紙にまとめる。(30分) (Google Classroom で提出)
	14 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の結果整理と分析・解釈 知能検査の結果の整理、分析・解釈について説明する。(講義) 結果について、整理、分析・解釈を行う。
	到達目標②③
	事前学修 検査結果を用意しておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 分析・解釈を完成させ、報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
15	アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方 アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方について解説を行う。(講義)
	到達目標③
	事前学修 これまでの報告書をもとに、フィードバックの仕方を考えておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 報告書を見直し、フィードバックしやすいように推敲する。(10分) (Google Classroom で提出)
授業成果	
観察法や面接法、心理検査法の実施方法を習得し、アセスメント結果の整理、分析、解釈ができる。	
成績評価の方法	
授業で取り上げるアセスメント方法すべてについて、レポート提出を要求する。提出されたレポートについて、実施方法が適切であるか (20%)、データの整理の仕方が適切で正確であるか (30%)、データの分析・解釈がマニュアルに従って行われているか (30%)、報告書の形式に従っているか (20%) で、総合的に評価する。	

隔授業となった。2021年に入っても、COVID-19は収束せず、2021年度授業では、対面授業を原則としつつ、いつでも遠隔授業に対応できるように最初から Google Classroom を開講するように求められた。「教育アセスメント」の2021年度受講希望者は15名（最終受講者数は14名）であり、教室定員の制限以下となり、2分級の必要はなかった。2020年度に大学の情報環境の整備が行われ、オンデマンド型、同時双方向型、ハイブリッド型授業の実施が可能となった。また、教室ごとの換気調査も進み、キャンパス内の各建物への進入時の手指消毒と体温測定、教員や学生のフェイスシールドの着用など、対面授業における感染予防対策も徹底された状態で、2021年度前期を迎えた。2021年度の「教育アセスメント」の授業概要を表4に示した。

2021年度「教育アセスメント」の授業内容は、COVID-19対応のために2020年度同様、子どもの行動観察や模擬面接の実施は中止し、代替のプログラムを準備した。また、対面授業が可能となった場合には、知能検査についての取り扱いを優先させるために、授業実施順序を変更することとした。対面授業、遠隔授業に関わらず、配信可能な授業用資料は全て Google Classroom により配信し、配信できない教材等の資料は、対面で配布した。実際には、表4に示されたように、1回目から3回目まで対面授業、4回目から7回目まで遠隔授業、8回目から15回目まで対面授業となった。なお、今回は実験実習等の特別な授業として、通常の対面授業実施より2週間早く対面授業の実施が可能となった。前年度と異なり、遠隔授業では、Google Meet を用いて双方向型のオンライン授業実施が可能となり、「教育アセスメント」の授業でも Google Meet でスライドやホワイトボードを共有して授業配信を行った。受講者数が15名という前年度の半数であったため、教員と学生、学生間のやり取りもリアルタイムで円滑に行うことができた。今年度の授業では、知能検査（WISC-IV）を重点的に取り上げることを計画しており、対面授業が始まった8回目から、グループに分かれて知能検査の模擬施行を行うことができた。ただし、COVID-19対応のために、密となる心理実験室の利用は避け、3～4名からなる4グループが、一つの教室内で検査を施行するといった形態をとった。また、知能検査を扱う授業回数がシラバスの3回から5回に増加したのは、当初予定していた授業時間外のグループ・ワークが、感染予防対策のために実施できなかったためであるが、臨床心理学をはじめとする心理学関連の履修科目がないカリキュラムにおける本科目の位置づけの問題も関係していたかもしれない。性格検査としては、YG 性格検査、東大式エゴグラム、内田クレペリン作業検査について、対面授業で取り扱った。

「教育アセスメント」は、2022年度入学生カリキュラムからなくなる科目の一つである。教育現場で活用できる心理学的アセスメントとして、観察法、面接法、心理検査を取り上げ、施行法やデータの整理、分析・解釈について学ぶことをねらいとした科目であるが、履修の前提として、基礎的な心理学的知識が必要であり、2018年度入学生カリキュラムでは、その点が十分考慮されなかったと言える。「教育アセスメント」で取り上げた心理検査のうちウエクスラー式知能検査（WISC-IV）は、6歳から16歳を対象とした児童用個別知能検査で、発達障害の診断や支援に活用されている。発達障害への理解は、特別支援教育においても重要視されている。具体的には、教育職員免許法の改正（平成28年11月）及び同法施行規則の改正（平成29年11月）により、教職課程で履修すべき事項について全面的な見直しが行われ、新たに加えられた内容の一つに特別支援教育の充実がある（文部科学省²⁾。平成31年4月1日施行に伴い新課程が開始され、「教育の基礎的理解に関する科目」に含めることが必要な事項として「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」（1単

臨床心理学関連科目の授業実践について

表 4 2021年度「教育アセスメント」授業の概要

授業回	授業実施日	授業計画シラバス変更	授業概要
1	4・13 対面授業	1 オリエンテーション・教育アセスメントとは何か 2 観察法	対面授業：教育アセスメント・観察法 グループ・ワーク 事後課題：教育・保育場面におけるアセスメントの必要性
2	4・20 対面授業	2 観察法 3 観察記録の整理と分析・解釈	対面授業：観察法・観察記録の整理と分析・解釈 グループ・ワーク 事後課題：観察計画
3	4・27 対面授業	4 面接法	対面授業：面接法 グループ・ワーク
4	5・11 遠隔 Google Meet	4 面接法 5 カウンセリングの基本	同時双方向型授業：面接法 ワーク課題：ジェノグラム 事後課題：面接法によるアセスメント
5	5・18 遠隔 Google Meet	6 面接の実施と記録・分析の仕方 9 描画法による心理検査	同時双方向型授業：面接法とアセスメント・心理検査 事後課題：パウムテストの施行
6	5・24 遠隔 Google Meet	10 描画法による心理検査の分析・解釈	同時双方向型授業：描画法による心理検査の分析・解釈 事後課題：パウムテストの分析・解釈
7	6・1 遠隔 Google Meet	11 知能検査（ウエクスラー式知能検査）	同時双方向型授業：知能検査 事後課題：対面授業の準備
8	6・8 対面授業	12 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の施行	対面授業：WISC-IVの施行 グループ・ワーク 事後課題：施行法の復習と記録整理
9	6・15 対面授業	13 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の施行	対面授業：WISC-IVの施行 グループ・ワーク 事後課題：施行法の復習と記録整理
10	6・22 対面授業	13 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の施行	対面授業：WISC-IVの施行 グループ・ワーク 事後課題：施行法の復習と記録整理
11	6・29 対面授業	14 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の結果整理と分析	対面授業：WISC-IVの施行・結果整理と分析 グループ・ワーク 事後課題：記録整理と分析
12	7・6 対面授業	14 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の結果整理と分析	対面授業：WISC-IVの結果整理と分析 グループ・ワーク 事後課題：WISC-IV報告書作成
13	7・13 対面授業	7 質問紙法による性格検査の施行（YG，東大式エゴグラム） 8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈（YG，東大式エゴグラム）	対面授業：YG性格検査の施行・結果整理と分析 グループ・ワーク 事後課題：YG性格検査報告書作成
14	7・20 対面授業	7 質問紙法による性格検査の施行（YG，東大式エゴグラム） 8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈（YG，東大式エゴグラム）	対面授業：内田クレベリン作業検査の施行・結果整理と分析 グループ・ワーク 事後課題：内田クレベリン作業検査報告書作成
15	7・25 対面授業	7 質問紙法による性格検査の施行（YG，東大式エゴグラム） 8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈（YG，東大式エゴグラム） 15 アセスメント報告書の書き方とフィードバック	対面授業：東大式エゴグラムの施行・結果整理と分析・心理検査のフィードバック グループ・ワーク 事後課題：東大式エゴグラム報告書作成 試験課題：知能検査結果のフィードバック

位以上修得）が挙げられている（文部科学省）³⁾。本学においても、2019年度児童教育学科入学生から、この新教職課程が適用され、2018年度入学生カリキュラムで開設された「特別支援教育」（3年次2単位）が選択科目から必修科目となった。2022年度「教育アセスメント」は開講予定であり、教

職課程における特別支援教育の充実を考慮に入れ、発達障害を主な対象とした授業内容の変更も検討する必要があると考えられる。

3. 「コミュニケーションの理論と実践」の授業実践

「コミュニケーションの理論と実践」（4年次2単位）は、保育・教育現場におけるコミュニケーション力の育成を目標に、今年度初めて開講された。幼児教育心理学科及び人間・社会文化学科では、全国実務教育協会⁴⁾による「カウンセリング実務士」⁵⁾資格取得が可能となるカリキュラムを用意していたが、2018年改組と同時に、資格取得のためのカリキュラムを廃止した。児童教育学科では、「カウンセリング実務士」資格取得のための必修科目として開講していた「カウンセリング概論Ⅰ」「カウンセリング概論Ⅱ」「カウンセリング演習Ⅰ」「カウンセリング演習Ⅱ」「カウンセリング実習」5科目を廃止し、その代わりに新たに選択科目「コミュニケーションの理論と実践」を開講し、4年次前期に配置した。選択科目を4年次前期に配置したのは、旧カリキュラムの「カウンセリング実習」が4年次前期配置であったことと、児童教育学科の学生のほとんどが初等教職課程や保育士課程を履修することから、免許・資格に関連する科目数が多く、3年次までの科目配置が難しかったことが理由である。4年次には、ほとんどの学生が卒業に必要な単位数を取得している現状から、受講希望者数は非常に少ないと予想された。「コミュニケーションの理論と実践」のシラバスを表5に示した。表5に示されたように、授業は、講義とグループワークから構成されていた。果たして、2021年度の「コミュニケーションの理論と実践」の受講希望者数は1名であった。改組完成年度に初めて開講する科目であることから、受講者数1名であっても、当該学生が受講を希望する限りは授業を行うことにした。表5に示した授業内容は変更せず、授業形態からグループワークを除外した。実際の授業の概要を表6に示した。この授業も、他の授業同様、当初から Google Classroom を活用し、配信可能な資料は全て配信した。また、4回目の授業から9回目の授業まで遠隔授業となり、Google Meet による同時双方向型のオンライン授業を実施した。授業内容は、シラバス通りであったが、授業形態は予定していたグループワークの代わりに、教員1名と受講者1名のディスカッション方式を取り入れた。

初めて開講した「コミュニケーションの理論と実践」は、1対1の授業形態で15回実施された。途中6回は遠隔授業となったが、対面授業との違いはほとんどなかったように思われる。遠隔授業になった時期と、受講者が就職活動でWEB面接を受ける時期が重なり、また授業内容もちょうど「対人コミュニケーション」を扱っていたことから、模擬WEB面接もワークとして取り入れた。授業で学んだことを実践の場で役立てることができたことについて、受講者には好評であり、個人に合わせた授業ができたと考えられるが、受講者1名では、受講者同士の学び合いの機会を提供できず、課題が残された。グループワークができる数名程度の受講者がいるのが理想であろう。2018年度改組のカリキュラム編成において免許・資格に直接関係しない選択科目を4年次に配置した時点で、受講希望者数はほとんど見込めないことも予想し得たことから、科目新設の是非について検討すべきであった。「コミュニケーションの理論と実践」の授業も「教育アセスメント」同様、2022年度入学生用カリキュラムからは削除されるが、コミュニケーション力については、その重要性を認識し、育成方法についてさらなる検討が必要である。コミュニケーション力は非認知能力の一つとされ、他の様々な非認知能力の要素と関連していることが示されており（生涯学習総合研究所、2020）⁶⁾、特

臨床心理学関連科目の授業実践について

表5 2021年度「コミュニケーションの理論と実践」シラバス

授業形態 A：授業形態 ②演習④ディスカッション、ディベート A：グループワーク有り B：発表（プレゼンテーション）有り B：ICT ツール等の活用 授業の連絡に Melly を利用。 課題提示・提出に Google Classroom を利用。	
授業目的 【授業の目的】 コミュニケーションの理論と、対人関係の基礎について学習し、保育・教育現場での対人援助に必要なコミュニケーション力を身に付けることを目的とする。カウンセリング技法を中心として、ロールプレイなどの実習を通して、適切なコミュニケーションの取り方を学ぶとともに、様々な場面で実践的に応用し、他者と良好な関係を形成する力を開発する。 【カリキュラム上の位置づけ】 DP5（子育て支援）家庭・地域社会において子育て支援を行うための知識・技術と実践力を身に付けることができる。	
到達目標	
1	①コミュニケーションの理論の基礎的な知識を習得することができる。 Learning Effort 4 コミュニケーションの理論の基礎的な知識を習得することができ、具体的な例を挙げ説明することができた。 Learning Effort 3 コミュニケーションの理論の基礎的な知識を理解し、説明することができた。 Learning Effort 2 コミュニケーションの理論の基礎的な知識を理解できた。 Learning Effort 1 コミュニケーションの理論の基礎的な知識に興味関心を持つことができた
2	②対人コミュニケーションの基礎的な技能を習得することができる。 Learning Effort 4 対人コミュニケーションの基礎的な技能を習得し、具体的な場面で使用する事例について説明することができた。 Learning Effort 3 対人コミュニケーションの基礎的な技能を習得し、他者に説明することができた。 Learning Effort 2 対人コミュニケーションの基礎的な技能を理解し、自分で使用することができた。 Learning Effort 1 対人コミュニケーションの基礎的な技能について、理解することができた。
3	③様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用することができる。 Learning Effort 4 様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用し、日常場面で他者と良好な関係を維持することができた。 Learning Effort 3 様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用し、日常場面で他者と良好な関係を形成することができた。 Learning Effort 2 様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用し、日常場面で他者とのかわり合いを積極的に行うことができた。 Learning Effort 1 様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用し、日常場面における対人関係に興味関心を持つことができるようになった。
授業計画	
1	オリエンテーション 授業の進め方について、オリエンテーションを行う。コミュニケーションについて解説する。（講義） 到達目標① 事前学修 資料を読む。（10分）（Google Classroom で提示） 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
2	コミュニケーションの理論 コミュニケーションの理論について解説する。（講義） 到達目標① 事前学修 資料を読む。（10分）（Google Classroom で提示） 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
3	自己とのコミュニケーション 自己とのコミュニケーションについて解説する。（講義） 自己とのコミュニケーション（実習）を実施し、グループに分かれて、話し合い、まとめを発表する。 到達目標①② 事前学修 課題に取り組む。（20分）（Google Classroom で提示） 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
4	対人コミュニケーション①自己開示 自己開示について解説する。（講義） グループ・ワーク。 到達目標①② 事前学修 課題に取り組む。（20分）（Google Classroom で提示） 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
5	対人コミュニケーション②傾聴 傾聴について解説する。（講義） グループ・ワーク。 到達目標①② 事前学修 課題に取り組む。（20分）（Google Classroom で提示） 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
6	対人コミュニケーション③受容と共感 受容と共感について解説する。（講義）

- グループ・ワーク。
到達目標①②
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 7 対人コミュニケーション④他者の心を動かすコミュニケーション
他者の心を動かすコミュニケーションについて解説する。(講義)
グループ・ワーク。
到達目標①②
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 8 子どもとのコミュニケーション (言語的)
子どもとのコミュニケーションについて解説する。(講義)
グループ・ワーク。
到達目標②③
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 9 子どもとのコミュニケーション (非言語的)
子どもとの非言語的コミュニケーションについて解説する。(講義)
グループ・ワーク。
到達目標②③
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 10 対人コミュニケーションにおけるネガティブな感情の扱い
対人コミュニケーションにおけるネガティブな感情の扱いについて解説する。(講義)
グループ・ワーク。
到達目標②③
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 11 幼稚園や保育所、小学校における対人コミュニケーション①保護者対応
保護者対応について解説する。(講義)
グループ・ワーク。
到達目標②③
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 12 幼稚園や保育所、小学校における対人コミュニケーション②面接場面
面接場面における適切なコミュニケーションの在り方について解説する。(講義)
グループ・ワーク。
到達目標②③
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 13 小学校における児童のコミュニケーション能力を高める
小学校における児童のコミュニケーション能力を高める方法について解説する。(講義)
グループ・ワーク。
到達目標②③
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 14 ポジティブなコミュニケーション
ポジティブなコミュニケーションについて解説する。(講義)
グループ・ワーク。
到達目標②③
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 15 まとめ・テスト
まとめ・テスト
授業のまとめを行う。(講義30分)
テスト (60分)
到達目標①②③
事前学修 テストの準備をしておく。(120分)
事後学修 テストの振り返りをする。(20分) (Google Classroom で提出)

授業成果

コミュニケーション能力を高め、様々な場面で実践的に応用することができ、円滑な対人関係を営むことができる。

成績評価の方法

課題提出 (50%)、グループワーク (30%)、試験 (20%)。

表6 2021年度「コミュニケーションの理論と実践」授業の概要

回数	実施日	授業方法	授業概要
1	4・14	対面授業	1 オリエンテーション
2	4・21	対面授業	2 コミュニケーションの理論
3	4・28	対面授業	3 自己とのコミュニケーション
4	5・12	遠隔授業	4 対人コミュニケーション①自己開示
5	5・19	遠隔授業	5 対人コミュニケーション②傾聴
6	5・26	遠隔授業	6 対人コミュニケーション③受容と共感
7	6・2	遠隔授業	7 対人コミュニケーション④他者の心を動かすコミュニケーション
8	6・9	遠隔授業	8 子どもとのコミュニケーション（言語的）
9	6・16	遠隔授業	9 子どもとのコミュニケーション（非言語的）
10	6・23	対面授業	10 対人コミュニケーションにおけるネガティブな感情の扱い
11	6・30	対面授業	11 幼稚園や保育所，小学校における対人コミュニケーション①保護者対応
12	7・7	対面授業	12 幼稚園や保育所，小学校における対人コミュニケーション②面接場面
13	7・14	対面授業	13 小学校における児童のコミュニケーション能力を高める
14	7・21	対面授業	14 ポジティブなコミュニケーション
15	7・28	対面授業	15 まとめ・テスト

に保育者・教育者などの対人援助職に就く学生には必要な能力であると考えられる。1科目の授業のみでコミュニケーション力の育成に効果があるわけではないものの、旧カリキュラムで「カウンセリング実務士」資格取得の必修科目5科目から、児童教育学科での選択科目1科目へ、さらに2022年度入学生カリキュラムで削除されるという流れにあって、今後開講されるそれぞれの授業の中で、コミュニケーション力の育成を意識したグループワーク等を取り入れるなどの工夫が必要であると考えられる。

4. 保育者・教育者養成課程における臨床心理学の位置づけ

2018年度改組によるカリキュラムにおいて、「臨床心理学」の名称は開講科目一覧から消えた。臨床心理学関連科目としては、選択科目「教育アセスメント」、選択科目「コミュニケーションの理論と実践」、保育士資格必修科目の「保育相談支援」（19年度入学生からは「子育て支援」）、小学校教諭免許必修科目「教育相談」であった。保育者養成校における心理学教育の役割について、大神（2019）⁷⁾は、心理学の知識や理解を保育の文脈のなかでどう活かせるかまでつなぐことが求められており、「心理学は、実践力につながる包括的知識の基盤として必要不可欠なものと位置づけられる」（p.12）と述べている。ここでの心理学は、発達心理学を中心とした心理学全般について指していると思われる。保育者養成において、臨床心理学は、乳幼児の発達アセスメントや子育て支援相談などでその専門性を活かすことになるかと推測される。一方、学校教育現場では、文部科学省が積極的に取り組んでいる「不登校」⁸⁾「いじめ」⁹⁾問題や、「子どもの自殺予防」¹⁰⁾などに見られるように、その問題理解や対応において臨床心理学の知見が有効であると考えられている。大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を示す「教職課程コアカリキュラム」¹¹⁾においても、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のひとつとして「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」が挙げられている。本学においても

「教育相談」の授業で、コアカリキュラムに沿ったシラバスを作成し開講している。ストレスや不適応状況下における子どもの心理の理解、カウンセリングなどの子どものこころのケアの方法、メンタルヘルスの予防対策など、臨床心理学の理論や方法の多くは、教育の場で実践的に活用されている。このように臨床心理学は、アセスメントやカウンセリングなどの実践性を特徴とすることを考慮するならば、保育者養成や教育者養成において、専門性を身につけ実践の場で活用できる応用科目として位置付けられるように思われる。

2018年改組により児童教育学科は、保育者・教育者養成に特化した学科として歩み始めた。臨床心理学の専門性としてアセスメントとカウンセリングに着目し、「教育アセスメント」「コミュニケーションの理論と実践」の2科目を新設したが、臨床心理学の基礎的知識を習得するための科目や、資格・免許に必須の心理学関連科目以外の心理学専門科目の欠如するカリキュラムでは、授業目標の達成は困難であったように思われた。保育者・教育者養成課程において、文部科学省や厚生労働省により指定された科目を置くと、専門科目として独自の科目を置くことのできる範囲は、たとえ選択科目であってもかなり限定されてしまうのが実情である。特に、教育実習や保育実習の前にできる限り専門科目を学修させたい養成校と、できるだけ効率よく単位を修得し免許・資格の取得を目指す学生の意向もあって、免許・資格に直結しない選択科目はどちらかと言えば敬遠される傾向が強いと言えるだろう。

臨床心理学は、アセスメントやカウンセリングなど実践的な側面もあるが、効率性とは程遠い側面も併せ持つ。臨床心理学における「こころ」へのアプローチとして、フロイトによる精神分析学や、ユング心理学などの深層心理に関する理論を学ぶことや、民話や伝説、絵本や児童文学作品に表現された物語を通して、無意識やファンタジーの世界について学ぶことがある。効率性や効果の可視化などが求められる今日、時代の流れに逆行するようであるが、「こころ」について向き合いじっくりと考える臨床心理学の持ち味を体験できるような授業もあってよいように思われる。保育者養成においては、児童文化財について学ぶ授業などで取り扱うことも十分可能であるし、実際そのようにしている養成校も多いのではないかと推測する。教育者養成においても、現代の子どもの置かれた、多様な問題を孕む環境や、その環境により影響を受ける子どもの心理や発達を理解する上で、臨床心理学の「こころ」へのアプローチは必要なものではないかと考えられる。

5. おわりに

児童教育学科の2018年度改組カリキュラムにおける臨床心理学関連の科目「教育アセスメント」「コミュニケーションの理論と実践」について、授業実践の概要を示した。授業の一部がCOVID-19対応による遠隔授業となったが、課題はむしろカリキュラム編成の在り方にあったように思われる。22年度入学生カリキュラムから、さらに臨床心理学を含む心理学関連の選択科目が消滅するが、保育者・教育者養成に特化する学科方針の下、カリキュラムのスリム化は避けて通れない事であろう。臨床心理学を専門とする筆者としては、いろいろな授業の中で、臨床心理学の「こころ」へのアプローチを活用し、将来保育者や教育者となる学生の「こころ」に、豊かさや深みを育んで欲しいと願っている。

謝辞

幼児教育心理学科開設以来、14年の長きにわたり熱意あるご指導を受け賜りました故戸田浩暢教授（2021年6月13日逝去）に心から感謝いたします。

文献

- 1) 学びと成長しくみデザイン研究所 授業支援 SNS melly. (<https://manabi-labo.co.jp/product/melly/>) (2021年8月15日)
- 2) 文部科学省 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/1414533.htm) (2021年8月15日)
- 3) 文部科学省 改正前後の教職課程の科目等一覧. (https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/08/09/1415122_2_1.pdf) (2021年8月15日)
- 4) 一般財団法人全国大学実務教育協会 (<https://www.jaueb.gr.jp/>) (2021年8月15日)
- 5) 一般財団法人全国大学実務教育協会 カウンセリング実務士. (<https://www.jaueb.gr.jp/zaigakusei/license/mentalcare.html>) (2021年8月15日)
- 6) 日本生涯学習総合研究所 2020 非認知能力の概念に関する考察Ⅱ—「非認知能力」の要素における関連性の観点から— 改訂版. (<http://www.shogai-soken.or.jp/htmltop/toppage.files/non-cog2019-2.pdf>) (2021年8月15日)
- 7) 大神優子 2019 保育者養成校における心理学教育の役割. 心理学ワールド, 85, 9-12. (<https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2019/04/85-9-12.pdf>) (2021年8月15日)
- 8) 文部科学省 「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」令和元年10月25日. (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm) (2021年8月15日)
- 9) 文部科学省 いじめ問題を含む子供のSOSに対する文部科学省の取組. (<https://www.mext.go.jp/ijime/index.htm>) (2021年8月15日)
- 10) 文部科学省 令和3年6月23日 児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）. (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1414737_00005.htm) (2021年8月15日)
- 11) 文部科学省 「教職課程コアカリキュラム」（令和3年8月4日教員養成部会決定）. (https://www.mext.go.jp/content/20210730-mxt_kyoikujinzai02-000016931_5.pdf) (2021年8月15日)